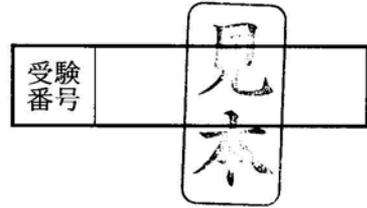


'15

前期日程



文化・社会系共通 小論文問題

(教育学部)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題に落丁，乱丁，印刷不鮮明の箇所等があった場合には申し出てください。
3. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
4. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
5. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。
6. 時間は60分です。

問 題

以下の文章を読み、問に答えなさい。

学校の図工や作業で使う新聞紙を、「家から一日分くらい持ってきてくれるかな」ということが言いにくくなってきた。それは、新聞をとっている家庭がかなり減ってきているからだ。つまり、新聞を読まなくなってきたということだけでなく、子どもにとって「身近に文字がない」ということなのだ。

総合的な学習で「次の時間は先日の社会見学の記録を新聞形式にして発表しようね」というと「新聞って知らんしいー(知らない)」と言われてしまうこともある。低学年の頃から、プレゼンテーションや学習発表で使う、新聞形式の発表用紙は知っているが、実際の新聞は見たことがない、新聞がかなり「遠い」子どもたちは少なくない。

とりわけ、版画や粘土を扱うときに下に敷いたり挟んだりするための新聞紙を持ってこられない子どもも多く、学校で購読している新聞紙を与えたりすることもよくある。

新聞を購読していないということは、そこに挟んであるチラシ広告、フリーペーパーなどもないから、生活に困らないかなと思うが、聞くとほとんどがスマホやタブレットで用が足りると言われてしまう。ノートパソコンがなくてもスマホはあるのだ。

家庭での情報獲得手段の多くはテレビ視聴だが、スマホやタブレットでも情報がかなり獲得されている。しかも、そこでは、アプリの増殖と同時にコンテンツがどんどん多様化しているので子どもたちの情報環境にも変化が起きている。

それは一言で言えば、子どもたちの接する文化(コンテンツ)が偏在し、常に変化変容し移動するということだ。小学校の高学年になると、男女の違いはあるにしろ、たとえば「嵐」や「3Dゲーム」にしても一ヶ月単位くらいで話題がコロコロとかわる。彼ら相手に仕事をしていてもなかなか「実態」が掴^{つか}めない。

さらに、携帯やスマホの普及で、子どもたちの生活では「文字文化」より、あたらしく「つながる」ことにウエイトをおくようになった。これは多くの評者や研究者、メ

ディアが論じていることだが、「短語」コミュニケーションが、確かにいじめなどトラブルの原因になっていることも多い。私たち学校関係者や親も頭を悩ませている。

ただ、こうした子どもたちの傾向を「一般的」と語るには躊躇^{ちゆうちよ}する。つまり、そういう学校やクラスや仲間もいるが、相変わらず、スマホとは無縁の子どもたちだけだっているのだ。キャラ立ちとかコミュカ^{りよく}などとは無関係で元気にあるいは無邪気に生活している子どもたちもいる。

結論的に言うなら、子どもたちは多様化し多層化しているということなのだ。

手紙、ノートなど文字のアナログでの一呼吸おいた連絡や情報の伝達は、即レス対応のLINEやテレビの時間消費型バラエティとせめぎ合っている。このことは、当然子どもたちの暮らし方や成長の仕方、あるいは友達^すの有りようを確実に分割し棲み分けを層化してしまう。

【岡崎勝「俺のとは違うなあ」『現代思想』2014年4月号】

(出題の都合上、一部表記を改めた。)

問

下線部のように、子どもたちが「多様化／多層化」しているという筆者の考えを踏まえ、授業のあり方はどのように変わっていくべきか、あなたの考えを書きなさい。(600字以内)